

幼稚園だより

2月号

ちよだ



令和 7年 1月 31日
千代田区立千代田幼稚園
園長 須藤 敏之

心の鬼を退治して、楽しく幸せな一日一日を

園長 須藤 敏之

2月3日は春の始まりとされる立春ですが、外は真冬の様相で、春が恋しいこの頃です。

立春の前日は冬の終わり、区切りとなる節分です。今年の「節分の集い」は、1月31日に鬼に扮した千代田小学校の6年生と交流しながら、賑やかに楽しく行いました。

さて、節分で登場する鬼ですが、実は、世界中のありとあらゆる所に潜んでいます。皆様の職場にも身近な所にもいて、毎日増えたり減ったりしています。果たしてその実態は何でしょう？……それは、人の心、人間そのものです。

例えば——園庭でAさんたちが楽しそうに遊んでいます。そこへ、Bくんがやってきて笑顔で「入れて」と声をかけました。しかし、Aさんは「いやだ!」と予想外の返事。Bくんは激怒して真っ赤な顔になり、Aさんを突き飛ばしてしまいました。Aさんは大泣きし、Bくんはプンプン怒って仁王立ち。——この時のBくんは正に小さな赤鬼です。

このような出来事は、大小の差はあれ、日常的に起こります。このような時、本園の教師はAさんにも赤鬼のBくんにも寄り添い、理由を聞いて共感します。その上でいけなかったこと、どうすればよかったかを諭し指導します。千代田幼稚園の子どもたちは純粋で素直ですので、相手に「ごめんね。」と言って謝り、謝られた子も「いいよ。」と言って許してあげて、場合によっては「こっちも仲間に入れてあげなくてごめんね。」と自分の非を認めて謝ることもあります。赤鬼だったBくんも、天使か仏に様変わり。(その立ち直りの早さは驚きで、こちらが「え、本当にいいの?」と言ってしまうほど。)

このように、子どもの心は縁する現象によって、天使にも悪魔にも、仏にも鬼にも変わります。これは子どもに限ったことではありませんが、良識ある大人なら、鬼の心を抑えて人との衝突を上手に避けられることも多いと思います。でも、子どもの鬼はそう簡単には退治できません。

子どもは集団遊びの中で友達と衝突し、それを望ましい形で解決することを繰り返しながら相手の気持ちや痛みを知り、仲良く遊ぶための知恵を働かせ、コミュニケーション力を培っていきます。それが幼稚園での大切な学びの一つであり、小学校以降の協働的な学びや集団行動の基礎となります。衝突や失敗を乗り越えた後の幸せそうな笑顔や楽しそうに友達と遊ぶ姿を見るたびに、私たちはこの上なく幸せな気持ちになります。この時は、子どもも大人もみんな天使か仏です。

これからも、子どもたちの心の鬼を一緒になって退治し、優しい天使の心、相手を思いやる仏の心を育み、園での日々が平和で幸せな一日一日となるよう力を尽くしてまいります。

3学期も残り1か月半となりました。5歳児すみれ組は修了式と小学校進学に向けて、4歳児さくら組と3歳児ばら組は進級に向けて、通常保育とともに丁寧に準備をしていきます。

寒さの厳しい2月ですが、皆様の変わらぬご理解とご協力を、よろしく願いいたします。



千代田幼稚園のホームページもご覧ください